

DATA FILE



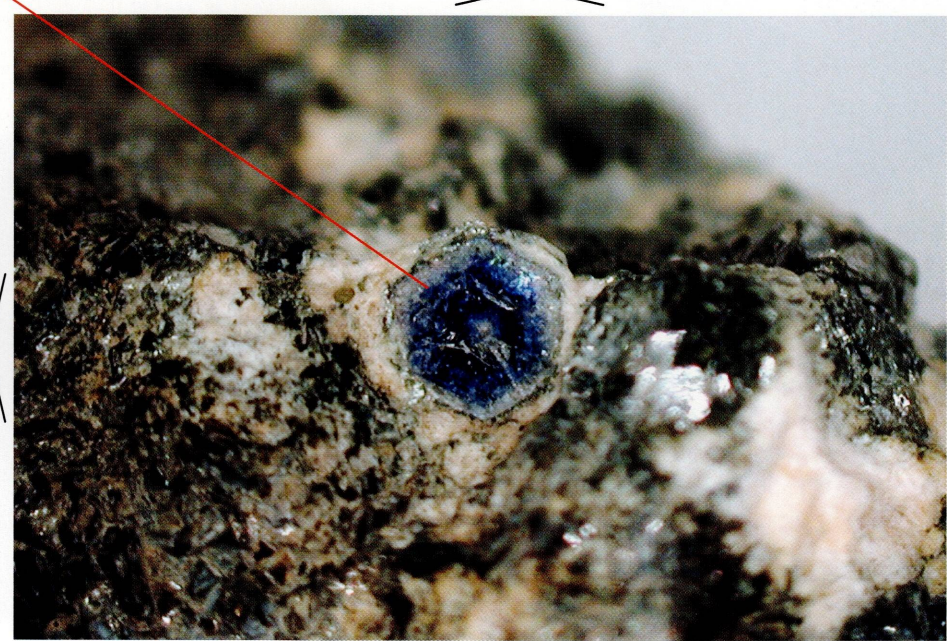
名前	SAPPHIRE(サファイア)／サファイア
化学組成	Al ₂ O ₃
色	青色（赤色以外）
光沢	ガラス光沢、ダイヤモンド光沢
蛍光	なし（稀にあり）
条痕	白色
劈開	なし
断面	貝殻状
硬度	9
比重	4.0

サファイア

SAPPHIRE

コランダムの中で赤色結晶の宝石名をルビー、主に青色の結晶の宝石名をサファイアという。

岐阜県中津川市の薬研山では、花崗岩中の紅柱石や鉄雲母の脈中からサファイアが産する。



素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

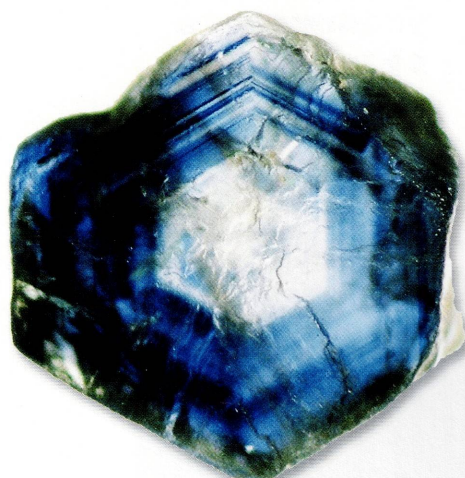
劈開はないが、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

多色性を持ち、光の当たる方向によって色の見え方が異なる。



青色のコランダム

サファイアは、コランダムという鉱物の宝石名として用いられる。一般的に、コランダムのなかで赤色のものを「ルビー」、青色のものを「サファイア」と呼ぶが、赤色以外のものをすべて「サファイア」と称する場合もある。青色の原因は組成中にわずかに含まれる鉄とチタンの働きによるもので、そのバランスや他の包有物によって、色が薄いものや濃いもの、ピンク色や黄色を帯びたものも産する。また、多色性を持つため、ひとつの結晶でも角度によって異なる色合いに見えることがある。なかでも星のような光を放つサファイアは「スターサファイア」と呼ばれ、古来から不思議な力を持つとされてきた。



▲花崗岩地帯を流れる川の、河床の漂砂鉱床中から見つかったサファイアの結晶。
岐阜県中津川市・木積沢産。

人工サファイア

天然サファイアは宝石として価値が高いが、美しい青色の結晶が見つかることは珍しい。そのため、原石に熱を加えて色をつくりかえられたサファイアも宝石用として売られている。また、20世紀初めからは、粉末にした酸化アルミニウムに鉄とチタンを加え高熱で溶かしてつくり出された人工サファイアが広く利用されるようになり、なかには専門家でなければ天然サファイアと区別できないようなものも存在。人工サファイアは、ボールペンのペン先やレンズ、CDを読み取るレーザーなどに利用されている。

▼青色のほかに黄色や無色のものもサファイアと呼ばれることがある。



▼サファイアとダイヤモンド、真珠を組み合わせてつくられたブローチ。

◀▼カットिंगが施されたサファイア。



主な産地



硬度9の宝石

天然の宝石でサファイアと見間違えやすいのが、ブルースピネルとブルートルマリン。また、1967年にタンザニアで発見されたタンザナイトも色合いによって似ているものがあり、無色の水晶を加工してつくられたサファイアのイミテーションも、一見するとよく似ている。しかし、これらの宝石が最高でも硬度8であるのに対して、サファイアは硬度9とダイヤモンドの次に硬いことから判別できる。